

「畏れ(恐れ) に向き合う」

2026.4.8

聖書に学ぶ 36

I サムエル記 24:1～22

私たちは主イエスを信じて救われていても、心の内側の戦いが全くなくなってしまった訳ではありません。主イエスを信じる者の、主にある生き方を邪魔するものは何でしょうか。

サウル王に気づかれず近づくチャンスの時が巡ってきました。誰を畏れるのか、何を恐れるのかダビデの選択、彼の主にある生き方を見ましょう。

今日の学びの要点

自分に敵対意識を持つ相手にどう対処したら良いのか、私たちは分からなくなります。ダビデは、サウルをどうにでもできるというチャンスに勝利し、自分からサウルと向き合い、自己の無能・無力を伝え、主にのみ信頼し、従い、任せる姿を見せました。

I、チャンス中での本当の勝利

1、ダビデが荒野のエンゲデにいるという情報がもたらされました。

① その直前まで、サウル王はどこにいたのでしょうか。(Iサムエル記 23:27)

② サウル王が 3,000 人も部下を連れて、ダビデを追いかけて、殺そうとした理由は何でしょうか。

- ・ダビデに対する妬みと嫉妬 (Iサムエル記 18:7、22:8)
- ・王である自分の立場を守るため (Iサムエル記 18:12)
- ・ダビデに対する不信感 (Iサムエル記 20:31)

2、ダビデとその部下は自分たちが隠れている洞窟に、サウルが一人で入って来たのを見て、どうしましたか。(Iサムエル記 24:4)

①ダビデの部下は何と言いましたか。

②ダビデはどうしましたか。



3、サウル王の衣の裾を切ったことで、ダビデはどうして心を痛めたのでしょうか。(Iサムエル記 24:5~6)

Ⅱ、恐れに向き合うダビデ (Iサムエル記 24:8~15)

1、三千人の兵と一緒に自分を殺そうとする恐ろしいサウル王に、向き合う事は、証拠のサウルの衣の布切れがあっても、簡単ではない。

2、ダビデは何を語りましたか。

- ①自分は仕返しをしない。(Iサムエル記 24:10)
- ②主に油注がれたサウル王を殺す意思はない。(Iサムエル記 24:8~11)
- ③主のさばきにゆだねる。(Iサムエル記 24:12~13)

3、サウル王が無駄な事をしていると、ダビデは悟らせようとしています。

何と言いましたか。(Iサムエル記 24:14)

- ・死んだ犬--- 無力。体はそこにあっても、吠えたり、噛みついたりできない。
- ・一匹の蚤--- 痒くて、いてほしくないが、指で潰せるほど小さい存在。

3、ダビデが畏れ、気にしていたのは、誰なのでしょう。(Iサムエル記 24:15)

Ⅲ、サウルの反応 (Iサムエル記 24:16~22)

1、サウル王はダビデに何と言いましたか。(Iサムエル記 24:17)

2、サウル王自身がダビデの将来を見越している。(Iサムエル記 24:20)